

ref. 1

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭62-95485

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和62年(1987)6月18日

H 02 K 23/66
11/00A-6650-5H
C-7829-5H

審査請求 未請求 (全3頁)

⑮ 考案の名称 整流子電動機

⑯ 実 願 昭60-184232

⑰ 出 願 昭60(1985)11月29日

⑱ 考 案 者 尾 高 秀 一 群馬県新田郡尾島町大字岩松800番地 三菱電機株式会社
群馬製作所内

⑲ 出 願 人 三菱電機株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

⑳ 代 理 人 弁理士 大岩 増雄 外2名

㉑ 実用新案登録請求の範囲

- (1) 内部で△結線された雑音防止用コンデンサに、1つのアース用端子と、電源用接続部と界磁コイル用接続部とを一体的に有する2つの電源側端子を設け；

金属製のフレームに上記アース用端子をネジ止めすることにより該フレームに上記コンデンサを固定し；

界磁コイルの電源側端部を上記フレームに取付けられた刷子保持器の溝部によつて案内して上記界磁コイル用接続部に直接接続したことを特徴とする整流子電動機。

- (2) 上記界磁コイルの電源側端部と上記界磁コイル用接続部とをヒュージングにより接続したことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項

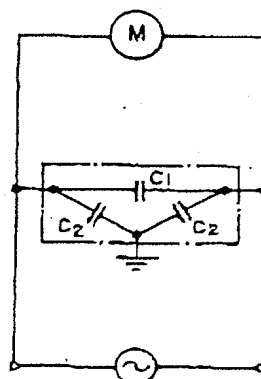
に記載の整流子電動機。

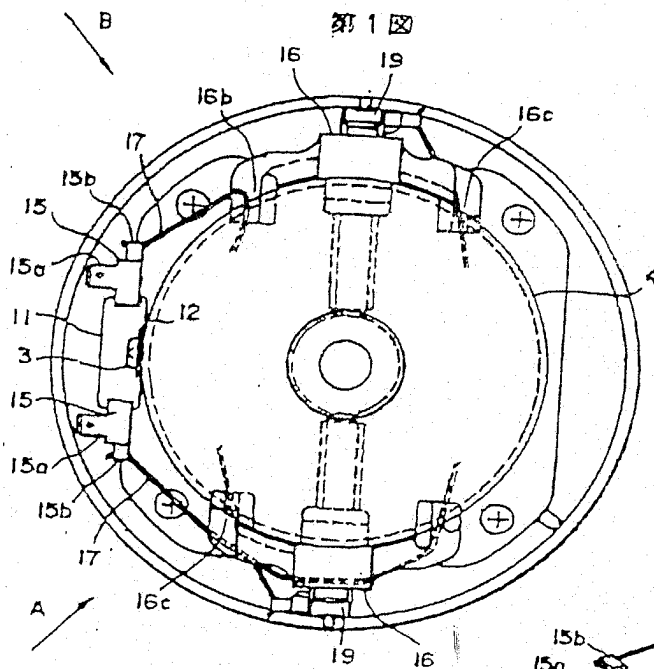
図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例による整流子電動機を軸方向から見た正面図、第2図および第3図は第1図におけるそれぞれA方向およびB方向から見た斜視図、第4図は雑音防止用コンデンサの一般的結線図、第5図は従来の整流子電動機を示す斜視図である。

図において、4はフレーム、11は雑音防止用コンデンサ、12はアース端子、15は電源側端子、15aは電源用接続部、15bは界磁コイル用接続部、16は刷子保持器、16bは溝部、17は界磁コイル電源側端部である。なお、各図中の同一符号は同一または相当部分を示す。

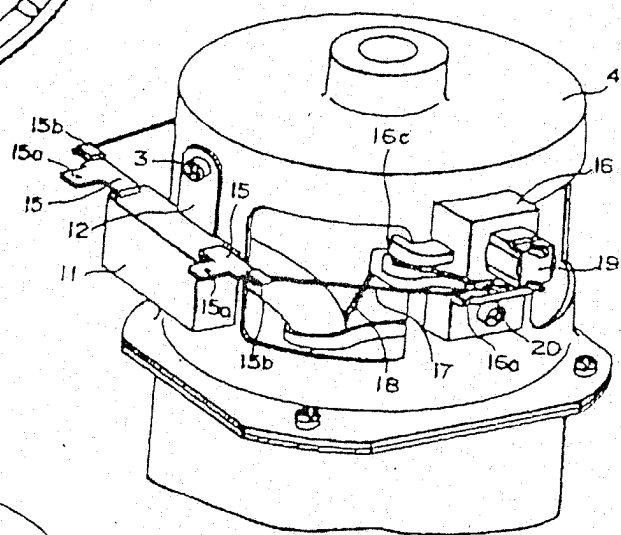
第4図



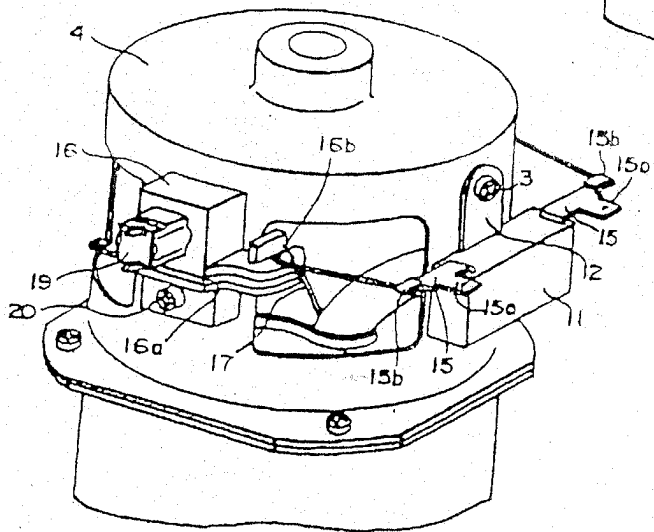


- 4: フレーム
 11: 被覆防止用コンデンサ
 12: アーム端子
 15: 電線側端子
 15a: 電線側接続部
 15b: 電線側接続部
 16: 刷毛保持部
 16a: 刷毛
 17: 励磁コイル電線側端子

第2図



第3図



実開 昭62-95485(3)

第5図

